



ゆらり

上映会

●とき:

平成30年4月14日(土) 18時~

(17時30分開場)

●ところ:

市民交流プラザ ホール (大村市本町326番地1)

●料金: 一般(高校生を除く18歳以上) 1,000円(前売800円)、高校生以下 500円(前売400円)

●申込: 事前申し込み必要。受付は平成30年3月23日(金)~平成30年4月6日(金)※先着130名

●申込方法: 下記問合せ先に電話又はFAX、メールで受付(※住所、氏名、一般・高校生以下の区分が必要です。)

●前売販売: 大村市観光振興課の窓口でのみ4月13日(金)まで販売(月曜~金曜日の8時30分から17時30分)

●問合せ先: 大村市観光振興課 TEL:0957-53-4111 FAX:0957-54-7135 mail:kankou@city.omura.nagasaki.jp

長崎県佐世保市出身の横尾初喜監督による映画「こはく」の製作がオール長崎ロケで進められており、大村市内においてもロケが予定されています。

この映画「こはく」を多くの人に観てもらおうことで、大村市の宣伝と誘客につながると考えています。その前段として、大村市民の方に映画「こはく」と横尾監督を知ってもらえ、横尾監督の作品である「ゆらり」の上映会を企画しました。

石川県の民宿「赤木箱」を舞台に、宿を営む家族や宿泊客など、「伝えられなかった想い」を抱える人々が家族の絆を取り戻す姿を、笑いと涙で描いたヒューマン・ファンタジー。

原作・脚本の西条みつとしは、お笑い芸人として活躍後、放送作家に転向。パイキング、我が家、フォーリンラブなどのコントを手掛ける一方、自身の劇団TAIYO MAGIC FILMを主宰。齊藤工初監督作『blank13』の脚本や劇作家競作による話題の深夜ドラマ「下北沢ダイハード」(テレビ東京)で筆頭を飾り、三谷幸喜、宮藤官九郎、西田征史らに続く、演劇界第4の才能として最注目のクリエイターである。池田エライザ主演の「ぼくは麻理のなか」他、ドラマやMVなど、数々の映像作品を手掛けてきた横尾初喜が、『ゆらり』の初公演の観劇時に実写化を熱望し、本作で映画監督デビューを飾った。

W主演には、『下衆の愛』のヒロイン役で幅の広い演技力を認められ、日本テレビ系ドラマ「ボク、運命の人です。」の主人公の職場の紅一点・宇久森みどり役で注目を浴びた岡野真也と、11月10日スタートの連ドラ「マチ工場のオンナ」でNHKのドラマに初主演する内山理名。その他、戸次重幸、萩原みのり、山中崇、遠藤久美子、平山浩行、渡辺いっけい、鶴田真由らの豪華キャストが、現在、未来、過去の三部から成る複数の家族の感動ストーリーを彩ります。



STORY

現在

民宿「赤木箱」の31歳の女主人・泉凜香(岡野真也)は、接客中に甘えてくる娘・ゆかり(筑礼)をついつい突き放してしまう。ショックを受けたゆかりは、父・孝介(山中崇)に「自分を誘拐してほしい」とせがみ、2人で狂言誘拐を計画するのだが…

ある日、中年の男・高山(戸次重幸)と後輩の保科(遠藤久美子)が宿泊にやってくるのだが、民宿のアルバイト・瞳(萩原みのり)は、自分を“捨てた”父親だと気づかず…



未来

凜香の娘でシングルマザーとして一人息子を育てる木下ゆかり(内山理名)は、ある日、息子・青空(高橋幸聖)に神様から手紙が届くポストをプレゼントする。その日から、ポストに投函された青空からの手紙に返事を書くのが、ゆかりの日課になった。しかし、ある日、ゆかりは入院することになり、別れた夫・正樹(平山浩行)に青空を預けることになる。息子からの手紙に返事を書くことができなくなり…



そして、過去

現在より8年前。23歳の凜香は、女優の夢を諦め、実家の民宿に戻ってきたばかりで、父・幸雄(渡辺いっけい)になだめられても、東京でうまくいかなかったイライラを、母・美和(鶴田真由)にぶつけてしまうが、ある日、時間を少しだけ巻き戻せるリモコンを発見し…